



道  
話

九

六

□ 9
4081
8



冊 九  
號 三  
函 七

門口 9  
號 4081  
卷 8

續鳩翁道法之上

男 武修



喜怒哀樂の<sup>きど</sup>やまご<sup>あはれ</sup>憂<sup>うれ</sup>せざる。あまご<sup>な</sup>中<sup>ちゆう</sup>と<sup>と</sup>又<sup>また</sup>後<sup>ご</sup>  
皆<sup>みな</sup>前<sup>ぜん</sup>一<sup>いつ</sup>に<sup>に</sup>行<sup>ゆ</sup>る。あれと<sup>あ</sup>和<sup>わ</sup>と<sup>と</sup>又<sup>また</sup>中<sup>ちゆう</sup>と<sup>と</sup>天<sup>てん</sup>  
下の<sup>か</sup>大本<sup>たいほん</sup>あり。和<sup>わ</sup>と<sup>と</sup>天<sup>てん</sup>下の<sup>か</sup>連<sup>れん</sup>なる。あま<sup>あま</sup>別人<sup>りゃくじん</sup>の<sup>の</sup>  
性<sup>せい</sup>と<sup>と</sup>情<sup>じゆう</sup>との<sup>の</sup>徳<sup>とく</sup>とい<sup>い</sup>ふ。及<sup>およ</sup>び<sup>び</sup>あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>う<sup>う</sup>も<sup>も</sup>難<sup>なん</sup>ま<sup>ま</sup>  
ら<sup>ら</sup>ぬと<sup>と</sup>中<sup>ちゆう</sup>年<sup>ねん</sup>と。か<sup>か</sup>余<sup>あま</sup>一<sup>いつ</sup>か<sup>か</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ご<sup>ご</sup>ご<sup>ご</sup>さ<sup>さ</sup>り  
ま<sup>ま</sup>と。早<sup>はや</sup>ま<sup>ま</sup>性<sup>せい</sup>と<sup>と</sup>情<sup>じゆう</sup>と。わ<sup>わ</sup>け<sup>け</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>心<sup>こころ</sup>の<sup>の</sup>年<sup>ねん</sup>と<sup>と</sup>や。  
た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>へ<sup>へ</sup>ご<sup>ご</sup>性<sup>せい</sup>と<sup>と</sup>情<sup>じゆう</sup>と<sup>と</sup>水<sup>みづ</sup>と<sup>と</sup>波<sup>なみ</sup>との<sup>の</sup>や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ご<sup>ご</sup>。

鳩翁道法之上

くれまゝそのいづりまをぬ。風が来々。波の  
ふくるときも情の舞へ〜やみよのトヤ。風出  
んく水あけなるとれと。性の中をよそのトヤ。  
波のゆるあもき。水のほろふ波とまへ。人の  
性情もあまといとまき。心情 動舞の  
二つを。その美の二つをまき。この性情と  
かあて。心と中しき守。心の体も性やう。心の利は  
情なり。心も居たり。されども性へ居るの体。  
情と道の利なりとも中しき守る。こゝろまきこゝろまきどら

人と道とを離すも。よまきとらるものいせぬ。  
あまのまをぬ。さそけ性をわしと思ひ。まきよ  
世に。後をも世に。かあ〜も世に。あ〜  
あべ。不あまの世に。あ〜も世に。又ほ〜たりも  
世に。い七情の舞ぬまへ。あ〜もあ〜やけい  
ともあまの性と中て。か〜も世に。あ〜も世に。あべ  
液と中と名つけます。いあ〜とあ〜と  
性とあま〜人とやスの〜あま〜と。あ〜もえ  
るとあま〜。あ〜もあ〜。あ〜もあ〜。

ありきども。何れもなむ性ふ。一切の理にふんじ。ありき。  
 能く事なる意にまする。かたがひも中ふ。いふると  
 の儀ともやしてござりませ。別こそは。天帝の性なる乃  
 大奉といふてあるのじや。さて情とありきとありき。  
 何れもあふれ。後をるは。事のあるとさ。さき親を  
 中ふ。乃びごと。在間の人。この事とあふ。くさぐさ  
 ふいむとや。後をるは。及ぼすと。得ぬと  
 下さりの。別情の。いふの。ござりませ。あつ  
 徳と名づけ。和もよすの。や。和をやら。きむつ

まじの半む。人がま。食食して。さする。和の  
 天下の。運るも。やである。別情の。いふの。い。在  
 間へ。を。指。あへ。が。あふ。よ。運る。と。中ふ  
 の。い。ござりませ。この。味。と。朱。文。と。が。お。た。と。入。あ。さ  
 たり。あ。い。の。さ。も。あ。い。何。れ。も。な。む。性。の。や。あ。ふ  
 も。の。じ。や。さ。て。東。へ。の。く。ぶ。と。さ。ら。あ。い。の。さ。て。あ  
 へ。回。年。あ。い。り。と。さ。と。た。と。あ。い。の。さ。て。北。へ。の。さ。あ。が  
 情。の。い。の。さ。と。の。さ。と。作。の。さ。と。い。と。さ。て

神皇正統記

か振ふ。性<sup>せう</sup>じ<sup>じ</sup>の。儀<sup>ぎ</sup>じ<sup>じ</sup>の。心<sup>こゝろ</sup>じ<sup>じ</sup>の。伴<sup>ばん</sup>じ<sup>じ</sup>の。用<sup>もち</sup>じ<sup>じ</sup>の。  
人<sup>ひと</sup>の。心<sup>こゝろ</sup>じ<sup>じ</sup>の。心<sup>こゝろ</sup>じ<sup>じ</sup>の。心<sup>こゝろ</sup>じ<sup>じ</sup>の。心<sup>こゝろ</sup>じ<sup>じ</sup>の。  
女<sup>メ</sup>中<sup>ぢゆう</sup>じ<sup>じ</sup>の。子<sup>こ</sup>供<sup>ども</sup>じ<sup>じ</sup>の。子<sup>こ</sup>供<sup>ども</sup>じ<sup>じ</sup>の。子<sup>こ</sup>供<sup>ども</sup>じ<sup>じ</sup>の。  
名<sup>な</sup>も。  
つと約<sup>やく</sup>じ<sup>じ</sup>の。あ。  
振<sup>ふる</sup>じ<sup>じ</sup>の。ま。  
ま。  
この。ご。  
お。  
お。

通<sup>とお</sup>じ<sup>じ</sup>の。お。  
ト。  
ま。  
ら。  
こ。  
お。  
け。  
生<sup>せい</sup>の。中<sup>ちゆう</sup>じ<sup>じ</sup>の。あ。

ていふこと。さういふか。おぼろげに切張紙とらうと。  
 とぞみぎさとさうしやと。もとしまししと。まふと。  
 た。今明德の玉と。とくぐ居まるのよやと。いん  
 にと。ソコテ和者ぐ。そまに結構なものよや。かひて  
 字と明德の玉に。どおんいさう。えせさうしや  
 こと。ふふとらうとくくえんいやくつ事。と。  
 こまに明德の玉とらうと。ごさうめ。我がぐりよ。  
 面向不背の玉とらうと。のよや。さともまきとら。  
 仕合る人トや。仕合この玉と。あんどくさうしやと。

中央の明德の玉と。天代の遠いよやと。いんまき  
 ましと。さうとへ合長せす。イヤくそまきとくも  
 ちまきと。明德にまうちらうい。いことさうませぬ  
 と。せう合あうわりとあらう。神を殿ぐ来く  
 つ。あまきと。居さる。何とあまのよや。  
 神が明德の玉と。磨く。おまきと。へまの  
 和者ぐ。そまららぐ。面向不背の玉トやと。  
 つられまるとゆゑ。せう合あうと。わまきと。神と  
 とのぐまきと。いやくおまきと。えまきと。めく。をせう。

徳と九

四

えせさらし申れ。ハアミまきあて。こまへ明徳  
のまぶもかりまき。面向不背のまぶでもあひ  
とらぐ。臥人が口とさうへく。ツナラ何の玉  
もごさうあも。サバく。おの玉ハ我なりつふ。  
ゆが玉とりん物じや。中くまきぬぐこのりふ。  
玉とちぢひますとくた。和尚がらうまき。  
ドレえせさらしやまき。ヤツリ面向不背の玉じや  
らみさぬとつらう。まきをひらうらう。イヤく  
明徳のまぶちぢひなふ。神主も自尔角とく

かの玉と又列らう。ヤツリまが玉おお遠ハま  
いと。たぐひおせり合ひ。いつらへとらう。らうらへ  
あり。争ふらふおあ。まき。あわこらんま  
砕けとまき。たぐを男ならう。まきとヤス  
事トヤ。ナント味のあるおりらう。活でいよ  
ざうまきあね。チトかんぐらう。らうらう。まきせ。  
性トヤの情トヤの心トヤのと。さぬぐの  
名もけりあまきとまき。まき。まき。まき。  
を男ならう。何もなひ。ある人のまき。

養子名を記す









かりき。百年の昔、他人ふまうすに。さうな女は  
 一むい夫の家へ嫁入すまじ。此終るまで。夫より  
 あさぶるる。さうふらう。さあ夫の心持次で  
 の氏なうて。玉の舞もの。さふなくとも。夜終る  
 花をさう。ト女ト男まうめ。つら中より  
 あらうや。ゆこの夫の心持おらう。嫁入  
 のとこ。長刀と。さうさう。あ人も。あ人も。あ人も  
 かんふせまう。あまつ。あまつ。あまつ。味  
 こゝと。横つらう。百年のあまつ。

若くも。思ひの。心持次で。さうな  
 幸い。おつ。さま。い。あ。は。合。わ。ら。う。結。核。な。あ  
 考。し。と。な。さ。う。い。ひ。人。ふ。夫。の。心。持。え。さ。う。ま  
 と。ゆ。こ。さ。う。す。う。と。この。心。持。も。あ。ら。う。さ。う  
 人も。他人の。嫁。い。な。ま。あ。入。る。雑。織。す。ら  
 考。ら。さ。う。と。あ。ら。う。人。が。あ。ら。う。の。い。や。さ。う  
 さ。う。い。ひ。あ。ら。う。い。よ。や。百年の。心。持。と  
 百年の。心。持。も。さ。う。さ。う。の。心。持。が。さ。う。さ。う  
 遠く。たら。ま。ら。らん。か。う。ま。を。娘。さ。う。ま。さ。う。め

徳川九代将軍御紀

六



くらきと。女房むすめぶつり責せままげげ。様さまつつりり  
 進すす出で。日ひ々々小こ園えんをを新しん工こう。御ごふふらら毎まい日にちをを  
 悪あく慮りょととののいいごごららゆゆとと。ここままふふ依よるる。后ご村むらハハッ  
 小こおおららががどど。保た村むら辺へ村むら必かならずづづひひとと。般はん病びやう林りんの  
 振あららおおそそままららふふとと。いいままとと石いしまますすらら  
 くれくれとともも。おおらら。ああししもも。恨うらみみとと。一いつととももいいそそん  
 口くちどど。千せん幸こう万まん若じやく。留とどめめののううららととしし  
 ららせせららのの者もの業ごうとと。ささももののわわららいいのの尻しつぽ  
 めめららひひふふ日ひとと。おおららとと。おおららとと六む年ねんづづりり

ナナトトウウづづららしし。有あららいい女に中ちゆうへへここららいいまませ  
 めめ。ささふふ付つくく。かかうういい活かつががぶぶららいいまますす。ままるる  
 新しんのの下げ女にがが。幸きやくのの相あ付つととううおおとと。別わかれれ！  
 ううままらら。内うち儀ぎがが大おほ変へんととああげげ。おおららんん何なにとと  
 わわららののトトヤヤ。ハハイイかかううののいいままのの付つととああおおととしして  
 ちちささふふ石いし細さい法ぽうぶぶららいいまますす。ナナンンジジヤヤ 付つとと  
 ままららとと。律りつががおおままのの二に年ねんやや三さんひひんんのの結むす  
 張はりとと。穿くららととのの袂たもと。ちちんんだだももたたららのの糸いと碇いかりととこ  
 つつ。又またううららとと律りつととううととトトヤヤ。ソソウウ行いけけらら

續々々々々々々々

十一

こころをきかす。この身代は半太夫の  
 おもひのほどにまゐる。このときもさういふ  
 ところのふりかへし。作山あまのいりやうする  
 在関係もさういふ。このまじやき。まじり女  
 とり入るもの。ゆるりもやさういふ。ゆるりゆるり  
 りのよのどや。おまじきけり。ゆるりゆるりゆるり  
 系の款もさういふ。朝立あまのふりかへし。ゆるり  
 たる。テモ。高士山はたる。ゆるりゆるりゆるり  
 まじり太夫の下女がゆるり。ゆるりゆるりゆるり。ゆるり

こころをきかす。この身代は半太夫の  
 おもひのほどにまゐる。このときもさういふ  
 ところのふりかへし。作山あまのいりやうする  
 在関係もさういふ。このまじやき。まじり女  
 とり入るもの。ゆるりもやさういふ。ゆるりゆるり  
 りのよのどや。おまじきけり。ゆるりゆるりゆるり  
 系の款もさういふ。朝立あまのふりかへし。ゆるり  
 たる。テモ。高士山はたる。ゆるりゆるりゆるり  
 まじり太夫の下女がゆるり。ゆるりゆるりゆるり。ゆるり



くとも怪しき事おふんと呼ぶなり。二親がこゝろん  
し。幸ふ事もか。縁と切くゆきことやま守  
まは。とくしるる女。金く使侍八の身  
物のさういも。松のつら中りれ。結うまのでま  
ぶりまこと。いつまうら中りて。藤ふつり蓮と  
中りも。一方が並なまこ。かのうらうまらむり、  
かすぬがめまも。侍八のいゆ遠のむり  
まをぬちヤツバリ。松のさういのもうらまこと。ま上  
侍八のいともわき男姑は。このともま。くら

ころま二親ぶや。侍八のがさういと中り。みり捨て  
ゆきまるとのそへ。さうまをぬ。只けま。捨て  
かうまこ。下らりゆせと。志さうら。みさうぶ  
さうま。すいへ。里の親らも。せん方なら。よい  
ま。捨て並る。後うの。園お。ま。ま。縁切  
く。ゆきま。ま。さ。さ。さ。後。一。向。ま  
お。ら。ま。も。せ。ど。又。ま。も。さ。守。し。ん。し。園  
ま。お。ゆ。ま。と。ゆ。ま。め。ま。さ。ま。と。中。半。と。や。  
侍。ま。と。世。の。父。と。う。ら。ま。葉。葉。こ。ら。この

續久松義経三巻



子つふふらぐ。其の家人ふよりししそんそまして。  
つてふそらぐとつらつらつ入する事ごくごこ  
つとくと。朱文もけはは。婦人姑と譯てゆと  
つとごらうもしし。よめ入しし。夫の家へ曰く  
ふふらつらつゆせぬ。ゆりのごとらうまそと。おうと  
らふら。つらひ嫁しそら。夫の家とやめとしそ。  
ゆらゆらとご家つらぬ。さればけふ女つ。親里へ  
らつとまふとつら。ゆらつご家つらぬ。よらとらや  
そらとけ人つらぬ。このさ理とそら入

うらまのしつのでらごらゆせぬ。つらつ  
あつらつ。情のつらつ。天下の達そそそ  
つらつ。誰がゆらつ。なつら。一そ  
とつらつ。つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。  
つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。  
つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。  
つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。  
つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。  
つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。  
つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。つらつ。

する。とてんく父母のゆうとてうけく。夫のちふり  
 ときうう。後ふさむぐの若方とするも。又結核  
 か身ふかりと。皆天命と。志くさい。難儀こん  
 難儀とせまるし。つとも。天命の難儀。困窮あはれ  
 通まんすとす。さても。通まんごころまをぬ。  
 うい多理おつぎ。親里へゆりくるも。ほい  
 天枕のうりあま。あま。ま。難儀困窮  
 する。ごまが。是れ。此のま。理。ご。なり。百人  
 小き人。は。夫と。えん。す。あ。や。里。へ。ゆ。り。ま。と。あ。く

よあへ〜結核+免おなり人も。あつ〜いふい  
 らんどもい人。あは結核おなりとも。んち。つれど  
 若方する事。つら。よのしや。夫よ。あ。さ。う。さ。ら。と  
 向のま。形。つ。若方。す。ま。も。ん。の。女。来。あ。ま。と  
 通と。ま。じ。つ。く。身。の。結。核。お。な。り。も。ん。の。若。方。の  
 くる。ま。よ。う。し。と。あ。や。さ。ま。の。伴。八。次。あ。は  
 困窮の免とめ。ま。い。の。志。一。是。さ。び。の。あ。備。せ  
 ん。ま。あ。か。け。と。お。つ。ま。〜。福。さ。と。〜。人  
 多くのは。う。ち。と。や。を。お。積。〜。と。ト。の。心。あ。ら。う

引渡さぬんとやそり各と素とてのりや  
 ましうが。天ののりぬあうざうりまこと海  
 ふらう難風をひ。船をふあふらう併け  
 かつうが。散舞うがう。その方も海中か  
 めら入ましく。ごう中うかや。命うずり。そ  
 一人の船も是とくまふ危きものぞきり  
 老人うふ。子け船うらまを。言ふ。つり  
 まし。伊八り今う在所へ向う半もう  
 ど。船もまうつりくとも。ほと電うま

たかの船在所に向うこの事を知らう  
 とまら。美を婦かふのうらう。トスまぐも  
 ぞうませぬ。あうら不在中の伊八が遊電とま  
 と。あうくうらう。夜病林とかう却くかう  
 皆く安堵のうらう。トス。ごうりまも。この伊  
 ハ。船状。天命の性さうい。た子ふの所地  
 つつ。怒うらう。車。ごうりませぬ。うら  
 その情れ年屋する。伊八はゆるくのトヤ  
 とう。人うらう。まの人の方のめれた

なる中よりあまう。あまうとやわらう。戒法を畏  
 し。徳をけしむの徳なり。とて。どろどろか。互  
 お人の名ととも。道の板の月心か。好要てごさう

結句

續々鳩翁道活三之下  
 戒法を畏し。徳をけしむの徳なり。とて。どろどろか。互  
 お人の名ととも。道の板の月心か。好要てごさう

續々鳩翁道活三之下

男 武修 聞書

中和と致して。天代位へ。美相育ると。あま  
 戒法を畏し。徳をけしむの徳なり。とて。どろどろか。互  
 お人の名ととも。道の板の月心か。好要てごさう

續々鳩翁道活三之下

のどや。平とうとうと。平んのみやうやしてふくも有  
ら。平いごごりまふ。たさうりすと。國天下を  
よ。いさう。いさう。いさう。一家一兒もそまふ。  
有がさうとドヤ。天地位すまふ。聖人よと治め  
たまふ。時ら。時ら。時ら。天ら。天の徳を  
つらう。地ら。地の徳を。つらう。つらう。つらう。  
一家ごとく。親ら。親乃やうふら。夫ら  
吏の中ら。ふかりのどや。美相中ら。うらうら。  
又風十ぬ。うらふ。うらふ。うらふ。うらうら。うらうら。

おら。おら。おら。おら。おら。おら。おら。おら。おら。おら。  
たのまふ。生と。生と。生と。一家で中ら。家内の  
諸ら。諸ら。諸ら。諸ら。諸ら。諸ら。諸ら。諸ら。諸ら。諸ら。  
るら。るら。るら。るら。るら。るら。るら。るら。るら。るら。  
く。その。彼と。つと。あま。と。あま。と。あま。と。あま。と。  
ゆん。ゆん。ゆん。ゆん。ゆん。ゆん。ゆん。ゆん。ゆん。ゆん。  
天地位。天地位。天地位。天地位。天地位。天地位。天地位。天地位。  
らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。  
らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。らうら。

晴る好と。いしあ情し。すさうおと忠懐と。  
 月々の分刻ら。おさうらひの候と。後のうらと  
 吟味す。拙をけし。じりまの。物取不物来し  
 たり。まかり。志の理と。旨点し。おらうらな  
 う。初めうが。おの。拙切。習人の。能半も。志の  
 初。あ。の。の。ら。う。ま。せ。め。どうぞ。おん。お。あ。と  
 び。う。ら。ん。持。出。し。く。お。新。あ。な。し。ま。せ。あ。の。人。の  
 初。ふ。一。の。う。ま。ま。さ。お。と。お。き。つ。め。お。や。あ。い。し  
 う。ま。し。さ。有。明。乃。月。ま。ご。ん。ま。の。お。あ。り

とら。え。ま。ま。ま。ま。は。味。の。あ。る。面。し。う。い。決。で。ざ。り  
 ま。と。チ。考。え。ら。う。し。ま。せ。さ。そ。か。の。お。ん。が  
 親。里。う。の。折。と。う。ら。び。お。し。め。と。お。う。ら。と。  
 考。え。て。飛。ま。し。と。あ。り。幸。ふ。の。う。び。律。ハ。が。逐  
 電。し。と。と。字。け。し。と。の。思。よ。い。縁。の。切。お。と  
 子。あ。お。り。信。と。う。び。と。せ。す。み。や。し。離。縁。し。て  
 り。う。ら。ま。い。り。け。な。し。縁。を。こ。と。と。親。ら  
 行。ふ。背。う。じ。信。成。う。う。初。南。せ。後。が。な。ぬ。と。  
 お。し。う。け。く。責。ま。し。う。ま。し。う。か。る。し。と。奥。の。さ。あ

る。親。と。四。御。面。ら。わ。り。と。ま。さ。し。も。夫。伴。八  
の。田。く。痛。ま。ま。し。ま。せ。ら。ひ。が。誰。ふ。と。ら。つ。く。縁。と  
切。く。縁。と。ま。せ。ら。う。ぞ。何。事。も。松。の。ふ。道。今。更  
里。へ。つ。つ。ま。う。て。い。男。始。四。の。今。抱。と。何。人。が。段  
し。ま。う。ら。ど。こ。ま。う。ら。が。娘。の。入。用。身。と。物。う。ら。ど  
つ。つ。ま。う。も。夫。伴。八。と。誰。人。ま。人。の。孝。け。い。松。が  
口。の。ば。り。ま。せ。ら。め。か。は。ん。と。そ。ゆ。と。ま。う。ら。ら。い。不  
孝。な。ま。ま。も。け。後。ら。心。の。り。さ。ら。く。あ。ら。う。ま。せ。と。  
申。し。承。知。す。ら。う。ら。く。も。な。く。あ。ま。り。終。り

親。里。と。も。切。ま。ふ。た。ら。ま。し。と。け。と。か。ん。せ。二。女。  
ナ。ト。あ。づ。い。有。ら。い。女。中。で。ら。ご。ざ。り。ま。せ。め。う。  
人。の。親。乃。と。ら。ら。わ。書。し。あ。ら。ひ。も。あ。や。ら。り。あ  
ら。ま。ま。う。ら。く。を。ら。る。ふ。こ。ま。う。ら。何。と。ま。は。ま。事。と  
つ。つ。始。小。縁。と。ま。う。ら。親。進。が。つ。つ。の。く。ぶ。さ。り  
ま。と。あ。ま。ま。こ。う。う。ら。い。親。の。ま。づ。ら。と。義。理。も  
は。と。ら。あ。ま。う。ら。縁。と。ま。う。ら。い。ら。う。ら。い。何。と  
を。や。ら。い。親。の。何。と。背。う。め。が。あ。ら。る。者。の  
者。り。じ。や。な。ま。く。利。や。ら。う。ら。居。る。人。が。あ。る。親

書 徳 義 孝 弟 忠 節 義 勇 貞 烈 義 勇 貞 烈

毒まゝのどや。若經ふ父の幸ふ子。つらとまゝに。  
 別處不義の傷もど。かりの口もふ。あゝあゝ  
 つらつらい。あゝあゝ父の幸ふ子。あゝあゝ  
 とつらとまゝに。今おんが又母の幸ひ。其れを  
 しけんも。作八と縁と切ませぬが別父母を不  
 義ふおん。入るゝと。中のどごころにまゝ。志つと  
 おんが若經とよと。おんが人ごもな。又若  
 ゑもどごころにまゝに。あゝあゝおんの  
 とつらとまゝに。あゝあゝおんの。大下

の達る。こまの中和といふ事と。おんそののでよ  
 ことごと。あゝあゝおん。あゝあゝおん。あゝあゝ  
 おん。あゝあゝおん。あゝあゝおん。あゝあゝ  
 親らとえんか。おん。あゝあゝおん。あゝあゝ  
 村らおん。あゝあゝおん。あゝあゝおん。あゝあゝ  
 他ん。あゝあゝおん。あゝあゝおん。あゝあゝ  
 くごころにまゝに。あゝあゝおん。あゝあゝ  
 親らおん。あゝあゝおん。あゝあゝおん。あゝあゝ  
 まとの。あゝあゝおん。あゝあゝおん。あゝあゝ





物あつちやうふあまのちうのち。村役人へゆきて。妻  
 細をくまひ。四太の山田代ふまが。若未進  
 へもあまのちやうふあまのち。中ニ沢がごうりませぬ。何卒  
 か新下れい。候とたのこましとゆふ。  
 村役人をむおさんどまて。やうく下作へ  
 候々々々まま。おふちこまし。僅なり  
 作るとりし。堂夜あ親の介抱おかりまて。  
 物ま日と出らうく。いひ出まませぬ。やうく  
 村一里の使とはま。又も春及村へ出ま

うあしづの小揚おやまのち。家まらうとこら。  
 あ親とたたく候ま。まのちまん中  
 めく。あまのちやうふあまのち。助  
 まま。女のまま。おまのちま  
 せん。いひおま。ひけま。ま  
 へ。あまのちやうふあまのち。若  
 小國らあまのち。あまのちま  
 へ。あまのちやうふあまのち。あまのち  
 うう。あまのちやうふあまのち。あまのち



とど。余候より用事しとて。かく侍せり。そ夜にり  
時。ゆくゆく。いも。門より。夢とけ。まへと  
まへ。門も。返事。する。まへ。今。夜。お。は。つ。  
返事。も。なし。こ。ま。い。い。し。ゆ。か。へ。え。ま。も。  
お。親。も。あ。い。じ。と。候。こ。ご。る。扱。を。い。し。め。  
お。い。し。ま。事。が。あ。ら。ね。私。の。ゆ。り。か。お。ま。い。ぬ。  
お。案。じ。い。こ。ご。り。ま。し。と。あ。ら。う。お。つ。い。あ。  
親。の。候。い。し。と。も。我。末。ゆ。い。つ。か。る。若。業  
ノ。中。伊。ハ。の。ふ。あ。な。め。お。お。固。ま。さ。う。か。せ。ま。り。こ。

二人も。業。病。も。あ。い。ひ。け。し。月。さ。の。ま。人  
の。介。抱。い。け。も。ま。い。し。今。と。つ。ま。い。さ。が。今。し。  
そ。う。この。ゆ。り。れ。お。ま。い。ゆ。り。や。我。末。ゆ。  
と。て。親。里。へ。ゆ。り。れ。と。ふ。親。の。心。の。お。  
つけ。より。い。し。か。け。年。ご。ら。の。報。報。年。告。  
中。に。あ。ら。美。の。し。ゆ。め。も。そ。か。ど。い。介。抱。り。  
と。ま。さ。ら。せ。ま。い。し。ど。と。お。の。年。月。乃。事。お  
と。ら。運。座。の。心。乃。か。ら。る。の。と。を。解。て。い。な。い。  
ま。い。が。う。そ。が。帰。こ。ま。い。む。は。し。ら。若。業。末。

今合もなつと。あつと。ろくろ織て死めるとあつた。  
 つい。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。  
 ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。  
 ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。  
 ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。  
 ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。  
 ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。  
 ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。  
 ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。  
 ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。ゆきなく。

かしら。お先途とえとけますと。らまてそんつ  
 り。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
 あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

御家九代公御記

九



とらり。また美がみえまふまふ。また花もあふ  
の毒いさひ。とやくといひさぐらめ。おねかゆく。  
かすこましく。またふけ一糸一塵も父母をうらむ  
んなく。たがのまが。能とくらまふまふ。また一靴を  
志。うううう。あよまふ。うううう。うううう。  
またふ。おねかゆく。またあまふ。またあまふ。  
と。おのまふ。うううう。うううう。うううう。  
こぶらませう。またあまふ。またあまふ。またあまふ。  
うううう。またあまふ。またあまふ。またあまふ。

人といふん。うううう。うううう。うううう。  
またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。  
つらう。またあまふ。またあまふ。またあまふ。  
人。またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。  
都。またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。  
うううう。またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。  
またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。  
またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。  
またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。  
またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。またあまふ。

今不日中まかざおめくち。とまじし人かしの病や  
 なるませぬと。つとをみんやふく。なほの病やなるふ。  
 しくふとお付よ。しくませう。そのと氣のほるぬ  
 事こと。くごうりましこ。うすまのさず。若わかいさげ  
 じや。今日こんにちかよひしゆせうとら入。冥みやう花はなもたよ  
 ころるび。さくふの法はふ法はふと。えくうくわうくく。秘ひす  
 ませうと。その用もち念ねんくおひましこ。利りの法はふ  
 候たうのあり。佛ぶつ村むらへり。あうそる一里いちりあまう。あうら  
 とおるら。かの習まじ習まじと容ゆるくあひ。姑こくくあづ

く習まじ守まもとまのの。かうくおゆひよまおつままと。  
 帯おびやうのもの。く。おんおんと負おしくく。習まじとあひ。  
 一里いちりあまうのふと女むすめのあま。かひくく。くく  
 まさる。まをくくくく。川かわもあり。擗ひとらう。くく  
 しく寺てらへゆつと。海うみ中なかつとこのかかの習まじとあ  
 へ。孝たうの隅すみ。くくかかああ中なかつふ。くくくく  
 しくく。ままとと引ひ返かへしくく。ああゆゆ。姑こと容ゆるり  
 有あひ。佛ぶつへるるををねねくく。くくくくくくくくくく  
 ゆり。海うみ中なかつへあつつ。徒たととへへ習まじ姑この二ふた便べんの世よ



一。身の内例ふあつて。まてと年うらうら。以法  
 後と徳守と。そは活ふとまじ。後中へ姑を  
 一のこゝろ。まら男と。これとく小面うら。及  
 といまねく。あふ帰ら。男と。おらう。秘をせおる。  
 ゆと寺へ姑をひらひふま。脊ふ負う。後中へふ  
 れと。一さんう家あ帰ら。すく。屋の活活と  
 徳守と。ふ男姑と。負う。一里余のふ。性  
 御台ちびふ。あふ。あふ。一日の半。た。さ。う。ま。を  
 ぬ。は。た。日。假。の。り。あ。れ。日。と。風。の。目。一。口。の。息

一。た。と。孝。順。の。心。状。は。る。人。務。致。世。あ。その。ら  
 じ。う。り。ま。せ。あ。さ。た。が。後。く。い。ま。結。の。人。の。ふ。う。を  
 孝。の。志。と。拂。こ。ま。し。く。ま。る。ん。姑。を。負。う。か。ふ。う  
 骨。と。と。す。ら。る。人。も。ぶ。ら。う。ま。し。と。あ。ら。う。ま。す。ら。  
 ね。ま。し。く。人。の。ま。と。お。ら。う。ゆ。ら。ん。か。の。は。た。と  
 初。ら。ま。し。う。傍。か。ふ。ら。日。く。ふ。あ。た。の。ま。結。と。結。ど。  
 儀。取。極。団。の。ま。と。ら。ふ。ら。う。ら。う。く。ま。あ。ゆ。と  
 一。つ。の。ゆ。ら。う。あ。あ。と。あ。あ。う。は。た。お。ら。う。後  
 ゆ。東。の。ま。れ。け。う。新。奉。山。の。新。守。と。ま。し。ゆ。



中。英<sup>わが</sup>やうがまらうらう。只<sup>いふ</sup>あめふんじやとりま  
 けうい。むの<sup>む</sup>むぐむぐまじと。まふ又<sup>いふ</sup>金<sup>いふ</sup>玉<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>付<sup>いふ</sup>と  
 つ<sup>いふ</sup>お<sup>いふ</sup>き<sup>いふ</sup>き<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>も<sup>いふ</sup>。あ<sup>いふ</sup>ぐ<sup>いふ</sup>一<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>お<sup>いふ</sup>び<sup>いふ</sup>ま<sup>いふ</sup>せ<sup>いふ</sup>ぬ。あ<sup>いふ</sup>け  
 ぐ<sup>いふ</sup>ふ<sup>いふ</sup>お<sup>いふ</sup>ぶ<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>む<sup>いふ</sup>む<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>ま<sup>いふ</sup>せ<sup>いふ</sup>ぬ。人<sup>いふ</sup>は<sup>いふ</sup>流<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>口<sup>いふ</sup>ふ  
 あ<sup>いふ</sup>め<sup>いふ</sup>ふ<sup>いふ</sup>ん<sup>いふ</sup>じ<sup>いふ</sup>や<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>や<sup>いふ</sup>し<sup>いふ</sup>や<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>い<sup>いふ</sup>。ま<sup>いふ</sup>ふ<sup>いふ</sup>的<sup>いふ</sup>者<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>英<sup>いふ</sup>や<sup>いふ</sup>う<sup>いふ</sup>で  
 ぐ<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>し<sup>いふ</sup>す<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>柳<sup>いふ</sup>井<sup>いふ</sup>氏<sup>いふ</sup>小<sup>いふ</sup>野<sup>いふ</sup>親<sup>いふ</sup>不<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>。松<sup>いふ</sup>田<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>系<sup>いふ</sup>と  
 け<sup>いふ</sup>く<sup>いふ</sup>。英<sup>いふ</sup>細<sup>いふ</sup>り<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>み<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>や<sup>いふ</sup>し<sup>いふ</sup>ふ<sup>いふ</sup>ま<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>け  
 状<sup>いふ</sup>な<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>。子<sup>いふ</sup>建<sup>いふ</sup>立<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>つ<sup>いふ</sup>け<sup>いふ</sup>。此<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>よ<sup>いふ</sup>ふ<sup>いふ</sup>乃<sup>いふ</sup>ひ<sup>いふ</sup>す<sup>いふ</sup>た<sup>いふ</sup>れ<sup>いふ</sup>が  
 を<sup>いふ</sup>守<sup>いふ</sup>様<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>お<sup>いふ</sup>お<sup>いふ</sup>じ<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>る<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ま<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>す<sup>いふ</sup>ま<sup>いふ</sup>ゆ<sup>いふ</sup>く<sup>いふ</sup>。

生<sup>いふ</sup>涯<sup>いふ</sup>人<sup>いふ</sup>技<sup>いふ</sup>持<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>。あ<sup>いふ</sup>う<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>程<sup>いふ</sup>ま<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>あ<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>い<sup>いふ</sup>。秋<sup>いふ</sup>乃  
 所<sup>いふ</sup>城<sup>いふ</sup>り<sup>いふ</sup>や<sup>いふ</sup>し<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>。沖<sup>いふ</sup>目<sup>いふ</sup>ん<sup>いふ</sup>作<sup>いふ</sup>け<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>。此<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>命<sup>いふ</sup>  
 と<sup>いふ</sup>家<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>。ま<sup>いふ</sup>ふ<sup>いふ</sup>長<sup>いふ</sup>か<sup>いふ</sup>お<sup>いふ</sup>松<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>う<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>も<sup>いふ</sup>。あ<sup>いふ</sup>と  
 々<sup>いふ</sup>々<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>か<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ひ<sup>いふ</sup>。あ<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>後<sup>いふ</sup>春<sup>いふ</sup>ふ<sup>いふ</sup>揚<sup>いふ</sup>々<sup>いふ</sup>。と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>々<sup>いふ</sup>  
 又<sup>いふ</sup>母<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>く<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>い<sup>いふ</sup>。あ<sup>いふ</sup>ま<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>う<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>ま<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>う  
 死<sup>いふ</sup>。と<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>あ<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>ふ<sup>いふ</sup>あ<sup>いふ</sup>物<sup>いふ</sup>う<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>う<sup>いふ</sup>。岩<sup>いふ</sup>剛<sup>いふ</sup>村<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>人<sup>いふ</sup>を<sup>いふ</sup>。あ<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>ふ  
 け<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>。追<sup>いふ</sup>村<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>く<sup>いふ</sup>。と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>あ<sup>いふ</sup>後<sup>いふ</sup>春<sup>いふ</sup>物<sup>いふ</sup>林<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>う<sup>いふ</sup>。あ<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>ふ  
 あ<sup>いふ</sup>ま<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>も<sup>いふ</sup>ゆ<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>あ<sup>いふ</sup>く<sup>いふ</sup>ふ<sup>いふ</sup>。や<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>。伊<sup>いふ</sup>八<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>。こ<sup>いふ</sup>の<sup>いふ</sup>あ<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>奉<sup>いふ</sup>  
 ぐ<sup>いふ</sup>あ<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>。と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>く<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>く<sup>いふ</sup>。清<sup>いふ</sup>と<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>や<sup>いふ</sup>う<sup>いふ</sup>あ<sup>いふ</sup>ら<sup>いふ</sup>。

徳川家系図





さん。小野のじつり人。おんくもとけくまう。  
 十回果しなり。娘とつこく。そくぐ忠剛。村り  
 ぬのさう。おんふ射面ふおんがまう。いさかの  
 じすめのみまねるる。さう。さう。さう。さう。さう。  
 うもなうらあや。おやまつう。人のんせ。さう。さう。  
 いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。  
 孝子りん。おんがまう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。  
 や長。おんがまう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。  
 孝のり。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。

性ふあさぶのなを。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
 性おんがまう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。  
 いら。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。  
 あさ。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。  
 人のあさ。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。  
 赤ぬのさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。  
 や。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。  
 んのいさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。  
 仁。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。

心とつふ事、や。さしん若り忠義と。新めようし  
 ちやと。ついでとてを新するのじや。けは信播ひ平ん  
 とつまがう。うりくとして一生涯を終るははをい  
 事しむいざざりませぬ。次はまじつら。よう信と  
 うあしがござりませぬ。山家うらうらめく多へ有る  
 小おと下女が。後うふあまじら。信播とよの千とふ  
 りと志うど。内儀のさうまじ。養うさおり信お  
 大いもの。うが。只もふさけくうりくと。信播新や  
 信おと。お手もろくくわり。内儀がえつけく。ナゼ

意あまかぬのしやと。信とよの千とふ  
 り。モシ信おりふ。密ても大輩ござりませぬ。うい  
 ちやと。ナド味のあまらみ。あやまぬ。ごうぞ一じ。  
 平んぬの明らと見えあつてかおる。り中りまじ。  
 うらうらと思ふ。おのり。うい。ござりませぬ。  
 朱文乙。祝書の待小。本献方塘一鏡用。天光  
 新て細細。洞染。那得清。如許。あま源  
 活。水。来。ナト。心。かんぐ。な。り。ませ。下。座

續編六冊

三

鳩翁道話

初編六冊  
續編六冊  
續々六冊

谷出來

同拾遺

嗣出

天保十年己亥正月

京撰書林

三條通柳馬場東八町

北村四郎兵衛

千本通一條十丁目

堺屋伊兵衛

心衣橋通北久大良町

河内屋喜兵衛

跋

士之相須也難矣非才之難其知  
己者則難矣而士有一見輒為終  
身之交者何哉有所感也予翁よ  
おんをよとよむ志の好の多庸愚の質  
人を志の明の好の多久くそ  
運の志の義骨肉の自家了般



平素雨汝乃交となすもいふも  
 九つ時をいふも実をいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも

少くも後をいふも純きれ積るゝ  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも  
 といふもいふもいふもいふも

九



